

3月14日定例会



この日は52名が参加。杉林の中の遊歩道に沿って100本予定の半数をひとまず植えた。和泉さんが木彫りで「シヤクナゲの小道」という標識を作ると張り切っている。

桃太郎のぼり

かわいいのぼりが紹介された。さくら友の会の作業中には、近くに写真のようなのぼりを立てることにした。ピンクと黄色の2種類。道坂さんのデザイン。

4月4日「深



坂さくらえ」



今年で3回目の「さくらえ」、青空の下、大勢が満開の桜を楽しんだ。友の会の熱心な維持管理活動の甲斐があって一段と美しさと勢いを増したように見える。

今年のさくらえの特長は、ISHIN吹奏楽団や平家太鼓勝山会などの市民グループの参加である。いずれも好評を博した。

4月9～12日、韓国さくら研修旅行

昨年の吉野山研修旅行について第2回目の研修旅行。28名が参加した。9日夜乗船出発、12日朝帰着という船中泊2夜、ホテル1夜という足掛け4日丸2日という旅日程。釜山、鎮海、慶州という桜の名所を堪能した。



画手紙の上手な方が何人もある。写真は最高齢80歳の宍戸さんの作（紀行文投稿者）。上右は鎮海余佐山公園にて。下左は余佐山公園。下右は慶州古墳公園。

韓さくら桜紀行

投稿

何組かの夫婦カップルを含む総勢28名の韓国への旅は、4月9日夜下関港を関釜フェリーで発ち、翌早朝釜山港へ着岸した。8:30 チャーターのバスで桜を見に鎮海市へ向け出発、旅行中のガイドは日本語の堪能な黄（コウ）さん（韓国女性）で、時折冗談も交えた語り口は、道中の雰囲気や常にも明るく盛り上げて呉れた。

人口370万の釜山市では、林立する高層ビルや田園地帯の整備されたビニルハウス郡に圧倒された。

折から「桜まつり」開催中の鎮海市では、桜に対する行政の支援策が十分に伺える、市中至るところ桜並木の街路樹に彩られ、まさに全市が万葉（ばんだ）の桜に埋め尽くされた観には瞠目した。

桜の名所の長橋山公園の爛漫の花を満喫し、余佐川畔の見事な桜トンネルと、川沿いに咲く菜の花の色彩のコントラストの競演にも酔い痴れた。次に訪れた帝王山公園では350段の石段を登って展望台へ立ったとき時は、体力の消耗も甚だしく、眼下の景観を眺める余裕すら無かった。

その後古都慶州へ移動し、豪華なコモドホテルへ投宿。翌朝は先ず華麗な建築を誇る仏国寺を目指したが、急な冷え込みに、皆、寒さに身を震わせながらの参詣だった。慶州国立博物館では、巨大な梵鐘（エミレの鐘）や、王族たちが眠る古墳公園などを巡り紫水晶や青磁の窯元など朝鮮文化の伝統を継承している工房を訪ねたりもして、12日朝、雨の降る下関港へ無事帰着、延べ4日間の旅を終えた。港下関の市民の一人として、釜山の新鮮で豊富な魚介類を、屋台でも商っていた巨大な魚市場での衝撃は絶大だったし、秀吉が朝鮮へ侵攻した折、徹底抗戦した李舜臣の軍艦（亀甲船）のことも強い印象として残っている。（宍戸昌和）

予定

6月13日維持管理部会
7月11日定例会